

秋！待ちに待ったカシミアの秋です。 令和のカシミアにとうとう期待！

「大のお気に入り穴が空くまで着た。外には着て行けないけど、着心地が良く捨てられず自宅ですと着用している」。UTOはそんなカシミアを提供したい。

ラグビーは、屈強な男たちの肉弾戦。あんな痛そうで危険なスポーツに、今まで馴染み薄でしたが、ワールドカップの日本開催で見る機会が増えました。

50年以上も英国にお住いの方から、「ラグビーは紳士のスポーツ」と聞いていました。ノーサイド後は勝負の結果を引きずらず、相手を称える爽やかさが良いですね。

また、多国籍のメンバー構成の各国代表。英国からは、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドが出場し、しかも、アイルランドは南北アイルランドのチームと知り、国のあり方、歴史、ラグビー協会の考え方に目からうろこです。



ニズムを知ってください。

【クラッシイ11月号】

ニット特集 一番詳しいニットの参考書

「毛玉」「洗い方」「保管方法」……気になること全部解決！

もう悩まない！

大事なニットのお手入れ術のコーナーを協力させて頂きました。

なんと、似顔絵付きです！
P110~113



【赤ちゃんズ誕生】

岩手工場発。ひと月違いで、「出来るだけ早く戻ってきます！」と、元気に産休に入った二人。二人ともに元氣な令和の赤ちゃんが誕生しました。会社の家族が増えました。復帰が待ち遠しい！
会社は、社員みんなの安定した生活の基盤。赤ちゃん誕生に、身が引き締まります。

【2019秋からの展開】

この秋から、藤巻百貨店・ウエブショップ、日本百貨店にほんばし総本店・日本橋コレド室町テラス1階をはじめ、国内約20カ所の高級旅館・ホテルの館内ショップでも御購入頂けるようになりました。

【毛玉のできにくいカシミア着用方法】

本物のウールは毛玉が出来ます。質の良い悪いとは別ものです。「なぜ毛玉は出来るの?」というメカ



カシミアの毛も人間の髪も同じタンパク質からできています。その繊維にはキューティクルがあります（業界ではスケールと言います）。このキューティクルは水分や湿気があると開き、少なくなると閉じます。まさにウールの繊維は呼吸しているのです。

毛玉は糸の本体から飛び出た細い繊維同士が絡まり玉になることです。キューティクルが開いた状態で摩擦がおきるとお互いの繊維同士が絡まりやすくなります。水の中（洗濯時）や蒸れ蒸れの状態（脇の下等）で摩擦（着用）すると、繊維同士が絡まりやすくなります。この絡まった状態が毛玉なのです。

繊維同士が絡まる原因は、目に見えないような空気中のゴミや静電気です。毛玉を防止するにはこの原因を取り除いてあげることがです。それには、着用後のブラッシングです。簡単にブラッシングして絡まりを解いてあげるだけで大きな効果があります。髪の毛と同じです。着用して蒸れ蒸れになったら新鮮な空気を入らせてください。キューティクルが開くと毛玉になりにくくなります。

【青山・表参道界隈】

UTOはこんな街から発信しています

みゆき通りのえんじゅの並木

素敵な「えんじゅ」は、お掃除が大変

当社があるのは南青山骨董通りで、一本東の通りがみゆき通りです。骨董通りとみゆき通りの間がほぼ南青山5丁目です。骨董通りは片側2車線の比較的広い通りにお店が並び通りですが、街路樹がなく電柱がむき出しで歩きにくい残念な通りです。一方南青山の5丁目と4丁目の境を通るみゆき通りは片側1車線の狭い通りですが、お洒落なブランドのお店が並び、えんじゅ（槐）の並木道が素敵な私の大好きな通りです。

みゆき通りとは随分雅な名前ですが、由来は天皇陛下が明治神宮に参拝される時に、ここを通り青山トンネルを抜けて皇居に戻られるルートを選定して「御幸通り」となったと聴きました。長い間、赤坂に抜ける青山トンネルが未開通だったのでもいつの間には立ち消えになり、名前だけが残ったようです。現在は開通しています。

みゆき通りの街路樹はえんじゅで、槐と書きます。中国北部の原産で排気ガスなどに強いので街路樹として植えられているようです。

ママ料のこの木は夏には秋の花のようなたくさんの白い花が次々と咲き、2〜3週間ぐらいたくさん

この間花が咲いては散り咲いては散りのくりかえしです。最盛期には樹全体が白く見えるぐらいたく

かです。当然樹の下は落ちた白い花弁で真っ白。見ている分にはとっても素敵なのですが、お掃除する人は大変です。桜のように薄い花びらが一斉に散ってすぐに土と馴染むのなら楽でしょうが、なにせ分厚いママ料の花が2〜3週間もぼろぼろと散り歩道は真っ白です。お店の前を毎朝お掃除しないと目も立ちます。毎朝お掃除をされている人が気の毒になってしまいます。

秋になると今度は枝豆のようになった沢山の葉が落ちます。晩秋になると葉が落ちます。小さな葉が特徴でもあるので、散る葉は凄いです。この時期の早朝も、落ちた葉っぱの掃除が大変です。掃除がされたお店と済ませていないお店がはっきり差が付きます。

街路樹はプラタナスやマロニエのような大きな葉の木が多くてみられますが、このえんじゅの並木を見てみると花弁や葉数の少ない樹木が選ばれるのが納得できます。

所どころ弱って枯れたえんじゅの後に常緑のクロガネモチが植えられています。えんじゅに懲りたので次はクロガネモチの樹なんですよ。

カシミア100%・レディース

Vネック ウエストシェイプセーター

1112-1341 ¥55,000(税込)



洗練されたシャープなVネックラインとややウエストを絞った女性らしいシェイプ。袖口と裾はリブをあしらひ、ソフトですっきりとしたフィット感に仕上げられています。レイヤーのしやすいデザインはコートインからジャケットインまで幅広く活用可能。デリーリースタイルの上品な1枚。

カシミア100%・メンズ

ナローVネック セーター

1212-1305 ¥60,500(税込)



カシミアならではの質素な素材が引き立つシンプルなデザインながら、通常より小さなVネックラインが一番の特徴で、深いVラインにはない若々しさを演出します。

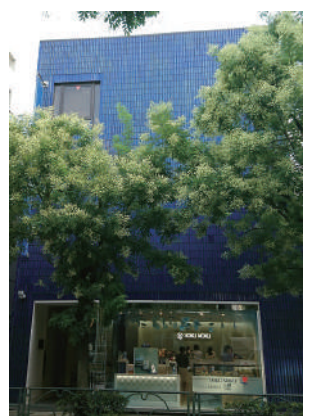
カシミア100%・小物

ストライプ配色・天使のストール

1312-3297 ¥28,600(税込)



ストライプ切り替えのバイカラー。性別を選ばないシンプルで使いやすいサイズです。天使シリーズならではの軽さとぬくもりを感じられるアイテムで、永く愛用するほどにふんわりと滑らかな風合いへと変化。ギフトにも喜ばれるアイテム。



カシミアとニットの話 * (六十四)

何が凄いの？ニットのオーダー

貴方の為に、ぴったりのサイズで好きな色で作ります

当社 UTO の売りは、「カシミアニット専門で、世界最高峰の原料と熟練の職人による丁寧な作り」と、「ニットのカスタムオーダー」です。

創業以来 29 年、世界一のカシミアを目指してきました。世界一と言っても、販売枚数や売上額ではなく、心ある人から、「素敵で高級なカシミアニットと言ったら UTO だね」と言われることを目指してきました。

パリコレやミラノファッションショー等は皆さんご存知だと思います。そのショーは半年も前に開催されます。

「何のためにそんなに早くからショーをやるのでしょうか？」

多くの人の答えは、デザイナーが「早々と新しいファッションを発表し認めてもらいたい」「ファッションの傾向を発表し流行をリードする」などの答えが大半です。もちろんそれもありませんが、一番の目的はデザイナーの所属する会社が、「ご注文を取る」ことです。

ショーに出るには莫大な費用が掛かります。当然ですがショーの費用を回収する為には会社は膨大な売上が必要です。その売り上げのために大量の商品を作らなければなりません。どの型を何枚作るかはとても重要です。やみくもに作り置きしても売れなかつたら大きな損失です。売れ残りのリスクを回避するためには「作る前にご注文を頂く」ことです。

オートクチュールは一点ものですが、ファッションビジネスのほとんどがプレタポルテと呼ばれる既製服です。

その名の通り既成で、大量の注文を元に大量に作り置きします。でないと採算が取れません。そのために全世界で大量生産が行われます。特にニット生産は、効率よく製造

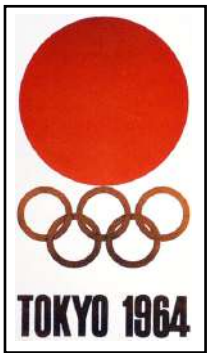
する為に細分化された分業生産です。半年も前に、ご注文を頂く為にショーで披露目して、ご注文を頂く為に世界中から集まってもう一つ機会を作るのがコレクションの究極の狙いなんです。

もうお分かりです。ね。リスクを出来るだけ避ける為には、製造期間から逆算して半年も前にショーをやる必要があるのです。製造している間に多くのメディアに前宣伝をしてもらい、話題を提供し購買意欲を喚起する。素晴らしいビジネスモデルです。

UTO の、「あなたの為に作ります」は、業界が驚く「業界の非常識」なんです。多くの企業が分業で生産するところを、UTO では全ての工程を一貫して自社工場の中でやっています。大量に安くは出来ませんが、お客様の為に丁寧にお作りするのが UTO の誇りです。



1964 東京オリンピック 聖火リレーの思い出



新国立競技場は、会社のある表参道から地下鉄で一駅の外苑前。休日の散歩で、時々建設中の国立競技場まで様子を見に行きます。開会まで一年を切ったかなり出来上がってました。チケットは、当たるはずもないと諦めて応募しなかったのですが、競技は何でもいいのでオリンピック期間中に競技場を見学するつもりで訪れたいと思っています。

15 年も前のことです。母が亡くなって遺品を整理していた妹が届いた荷物の中に、50 年以上も前の前回の東京オリンピックの聖火リレーに伴走で走った時の感謝状と写真が出てきました。自分ではすっかり忘れていたけど、母が仕舞ってくれていたようです。

「こんなの、何処にあったんだろう！」、すっかり忘れていた当時のことが甦ってきました。

中学生だった 14 歳。どんなことで選ばれたのか分かりませんが、島原の地元を走りました。

聖火リレーと言っても、聖火を持つ成人のお兄さんの後を 10 数名の中学生たちが五輪の旗をもって伴走するのです。中学生の子供でしたし、聖火をもって走ったのではないので、自分では聖火リレーで走ったという感覚は全くありませんでした。走る前日、支給されたランニングに日の丸と五輪のシンボルマークを姉に縫い付けてもらったこと。背が低く、伴走の最後尾の方で走ることが気恥ずかしく気が進まなかったほろ苦い記憶が甦りました。

それより、走り終わった後に配られた飲み物の印象が強く残っています。

お釈迦様の花まつりの時の甘茶のような味で、シュワシュワの黒い液体はまるで出来損ないの煎じ菓のような不味い味がして、みんなで「なんだこれ？」と叫んだ飲み物でした。これが初めて飲んだココ・コーラの味でした。今思うと、あの聖火リレーはココ・コーラがスポンサーだったんですね。

50 年以上も時が経ち、2020 年の東京オリンピックが近くなった今、皆さんから「伴走だって聖火リレーに走ったんだから、凄い！凄い！」と言って頂くと、「凄いことだったんだ！」とちょっと誇らしくなります。

家に残っている、前回の東京オリンピックの懐かしい記念品です。そういえば参加賞のメダルがあったなあ。あれはどこかへ無くしちゃったなあ。

世界のホテルを旅する(六十四)

元 旅行屋のお勧め ハワイ・USA

クイーン・カピオラニ ホテル

多くの人が、ハワイと言えばワイキキビーチ！だと言いますが、私はハワイと言えばダイヤモンドヘッドとカピオラニ公園です。

ハワイへ初めて行って最初に泊まったホテルが今回のクイーン・カピオラニ ホテルでした。1973 年でした。その後、仕事もプライベートも含めてハワイは 10 回以上は訪れ、いろんなホテルに泊まりましたが、やはり最初のホテルは印象深いものです。

当時日本の出国者が 200 万人台ですから、ハワイといえどもまだまだ遠い異国の地で、海外に行くのを夢見て旅行屋になって、やっと実現した夢のハワイでした。今では隔世の感がありますが、羽田で飛行機に乗り込むときは滑走路を歩いて行ってタラップを上り D-8 に乗り込みました。

ハワイに着き空港からホテルまでは舞い上がっていたのか、何処を見学したのかほとんど記憶にありませんが、ホテルの部屋に入って窓を開けて目に飛び込んできた風景が印象的で目に焼き付いています。

ヤシが映える緑の公園とダイヤモンドヘッド。長年夢にまで見たハワイそのものでした。以来ハワイと言えばダイヤモンドヘッド！です。

興奮冷めやらぬ間にホテルを飛び出して足を踏み入れたカピオラニ公園の清潔で緑の美しいこと。70 年代当時は日本とアメリカの経済差が大きく、アメリカの豊かさを実感しました。

それまで、何度も読んでガイドブックの中の、「緑に映える南国の赤いハイビスカスとブルーゲンビルアが美しい」という記述にとっても楽しみにしていました。南国の花が垣根のように普通に咲いているハイビスカスもブルーゲンビルアも期待通りでしたが、公園のあちこちに咲いているブルメリアの花に心を奪われました。

単純な 5 弁の花の美しさと素敵な香りはハワイに来るまで全く知らなかったのので一目惚れでした。

もう一つ感動したことがあります。それは公園で遊んでいる 5 歳ぐらいの金髪の女の子とコーリー犬です。

60 年代に「名犬ラッシー」というアメリカの TV 番組がありました。豊かなアメリカを絵にかいたような番組を夢中で見ていましたが、その TV のシーンがそのまま甦ったような光景でした。豊かな国の国民になったような最高の気分のハワイ旅の始まりでした。

